

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01769

研究課題名(和文) 園庭がない保育所における保育に関する研究：待機児童解消と子どもの発達保障の両立

研究課題名(英文) Study on education and care in Nursery school without garden: Eliminate waiting children and be well developed

研究代表者

細川 かおり (Hosokawa, Kaori)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：50259199

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：近年待機児童解消への早急の対応が迫られる中、都市部においては園庭のない保育所も設置されている。本研究ではビルの2階以上に設置され、土の園庭の代替としてテラス型の園庭という環境が、子どもの遊び、運動、保育に及ぼす影響について検討した。園庭での子どもの遊びについて、接地性がないテラス型の園庭を従来型の土の園庭と比較検討したところ、接地性がないテラス型園庭では「自然」「感覚遊び」「組織的なごっこ遊び」が少なかった。また、運動について活動量計を用いて測定したが、両園には違いがみられなかった。環境テラス型の園庭で環境構成について実践的に検討した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the influence of terrace garden at nursery school, which is not on the ground and not soil, on the play, exercise, and childcare method of each. As a result of observation, in the terraced garden, there were few nature play, organized pretend play, sensory play. However, there was no difference in measuring momentum. We made an attempt to construct the terrace garden environment.

研究分野：障害児保育、特別支援教育

キーワード：園庭のない保育所 テラス型園庭 接地性のない 保育所 環境 遊び

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 研究の動機と問題の所在

近年待機児童解消問題への早急の対応が迫られる中、都市部においては土地が少ないことから多様な建物の保育所が設置されてきており、中には園庭がない保育所も設置されている。当初は、従来からある地面に面した園舎と土の園庭をもつ園と代わるころはないと考えていたが、保育者からは「従来型の園舎と土の園庭がある園とは使い勝手が異なる」「使いにくい」という印象がしばしば語られた。改めてみると確かに従来型の園と物理的環境が異なることにより、保育の方法や子どもの遊びに影響があるのではないかと感じられ、こうした園環境が従来型の園とは異なる特徴をもつのであれば、この特徴に応じた保育が考えられる必要があるのではないかと考えた。

本研究で対象とするのは、建物の2階以上に設置された「接地性のない(定行ら、2007)園であり、土の園庭はもたないが、その代替としてテラスを持つ園である(テラス型園庭とよぶ)。本研究では、接地性のないテラス型園庭という物理的環境が保育に及ぼす影響について検討し、保育における園庭という環境の位置や意味、さらには保育における環境についての示唆を得たいと考えた。

### (2) 保育における環境

幼稚園教育要領においては「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」と記されており、保育所保育指針においても、「環境を通して行う保育の重要性」が明確に述べられている。環境は保育の方法でもあり、いかに環境をつくっていくかが重要となる。育つ主体は子どもであり、育てる側は直接的に指示することや強制的に働きかけることはなく、子どもの"生きている世界"を中心軸に置いて援助するという役割を担うこと(岡野、2018)を考えると、環境の役割の重要さが理解できる。

保育において求められる環境として関口(2009)は、「保育は、環境を通して行うこと、保育者は子どもがよりよく活動し、よりよい経験をする状況を作ることであり」としている。さらに保育の目的を「子どもの人格形成、諸能力を発達させること」と「それぞれの発達の時期にふさわしい生活を充実させること」の2つであるとしている。そして両者の総合的な経験のためには、「子どもが自ら環境に働きかけて自発的・主体的に生活する状況がつけられること」「その環境との相互作用が発達的に望ましい方向の内容を含んでいること」が必要であるとしている。子どもにとっての園庭は子どもが自ら働きかけることができる場であり、子どもにふさわしい生活ができる場である必要がある。

### (3) 子どもの発達と環境に関する研究

物理的環境が子どもの発達に及ぼす影響については、いくつかの研究がある。

定行・小池ら(小池・定行2005,2006; 定

行・小池2007)は、首都圏の保育所の中で、ビルなどに設置される認証保育所(東京都)を対象に建築学の視点からその環境について検討している。定行ら(2007)では園庭をもたずに近隣の公園等を外遊びに利用している認証保育所について、近隣の公園の外遊び空間としての利用状況や園庭の有無による外遊びの行動の違い(主に大型遊具を用いた遊び)について、ヒアリングおよび観察により検討した。その結果、園庭の有無や保育施設の立地・周辺施設的环境により外遊びの時間や種類が大きく変わることを、および、公園の整備の必要性を指摘している。これらの研究を通して、保育所の量的確保のために規制緩和により従来の施設水準を下回ることも容認されるなかで、子どもの保育環境の質をいかに確保していくかは大きな課題であると指摘している。

## 2. 研究の目的

これまでに、園の物理的環境が保育に及ぼす影響についての検討は、定行ら以外は見当たらない。そこで本研究では接地性のないテラス型園庭に着目し、その物理的環境が及ぼす影響について検討し、環境構成の可能性や保育における環境についての示唆を得る。以下のことを目的とする。

(1) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園をもつ)という環境が、子どもの遊びに及ぼす影響について、観察に基づき実証的に明らかにする。

(2) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)という環境が、子どもの運動に及ぼす影響について、実証的に明らかにする。

(3) 保育士からみた保育所における子どもにとっての園庭の意味や役割を検討する。

(4) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)の保育上、管理運営上の課題について明らかにする。

(5) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)における子どもの遊びを豊かにすることをめざした環境の構成の可能性について検討する。

## 3. 研究の方法

(1) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)(2園)と従来型の園舎及び土の園庭をもつ園(2園)について、園庭での遊びを観察した。観察及びVTR記録により、予め定めたチェックリストにより各遊びの出現頻度をチェックし量的に比較検討することにより、テラス型園庭と従来型の土の園庭という環境が及ぼす影響について検討した。予備的な観察の結果、行事の影響を受けてにくい4歳児を対象に検討した。

(2) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)と従来型土の園庭という環境が運動に影響を及ぼすのではないかと仮説から、それぞれの環境にある1園の4歳児を対象に3軸加速度計センサーを備えた活動量

計を装着してもらい、歩数、歩行距離、消費カロリーの計測を行った。

運動能力調査を実施した。「25メートル走」(走力)、「テニスボール投げ」(投力)、「立ち幅跳び」(跳躍力)、「飛び越しくぐり」(身のこなし、敏捷性)、「握力」(筋力)の5種類を実施し検討した。4歳児、8~9名を対象にして園児が在園する時間に装着し計測した。

(3) 保育所における子どもにとっての園庭の意味や役割を検討するために、保育所保育士にアンケート調査を実施した。441名から回答が得られた。

(4) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)5園(関東圏、A園からD園)を訪問し園長(または相当する立場)にインタビュー調査を行った。また、園庭の環境の調査も実施した。

(5) これまでの研究から明らかになったビルの階上にあるテラス型の園庭の特徴を踏まえて、自然環境の構成、遊具等の設置により子どもの遊びが豊かになるための環境構成の可能性について、事例的に実践しながら検討した。

#### 4. 研究成果

(1) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園をもつ)という環境が、子どもの遊びに及ぼす影響

園庭のない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)と従来型の土の園庭をもつ園の観察およびVTRをから、「探索」「感覚運動遊び」「みたく遊び」「役割のあるごっこ遊び」「組織だったごっこ遊び」「おいかげごっこ」「簡単なルール・伝承遊び」「競技」「固定遊具」「移動遊具」「自然」に分類して遊びの出現頻度を求めたところ、「感覚遊び」「組織だったごっこ遊び」「自然」において有意に園庭のない園において出現が少なく、「移動遊具」においては有意に出現が多かった。組織だったごっこ遊びについては、園庭のない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)は平面的でのっぺりとしており、拠点となる場がないことが一因と考えられた。また、「自然」については、どの園もプランターを設置して草花や野菜の栽培を行っていたが、しかし従来型の園であれば雑草のように植えなくても生えてきて、子ども達が自由に遊びに使うことも可能な草花がなかったり、地面の土を集めてままごとの材料にするといったことはできない。また樹木の植栽も難しいなどのためと推測された。

また、階上にあるテラス型の園庭を16区画に区切り、どの場に子どもがいたかを検討した。その結果、子どもがいた場所は、階上にあるテラス型の園庭では中央で遊ぶ傾向にあり、従来型の土の園庭では、遊具のある端など遊びの拠点となる場所が多い傾向にあった。

以上から階上にあるテラス型の園庭とい

う物理的環境において生じる遊びの特徴として、「自然」に関する遊びが少ないこと、ごっこ遊びの出現はみられるものの、組織的なごっこ遊びの出現が少ないことがひとつの特徴と考えられた。

(2) 園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)という環境が、子どもの運動に及ぼす影響

園庭がない園(ビルの階上にテラス型の園庭をもつ)では、全ての保育室から園庭へのアクセスがよいわけではなく、ビルの2階以上にあるために散歩などで外にでやすいとはいえない環境にあり、園庭もテラス型である。こうした環境が子どもの運動に影響を及ぼすか検討した。2園について7~8名の子どもに活動量計を装着して検討した。その結果、歩数、歩行距離、消費カロリーにおいて有意な差はみられなかった(図)。

運動能力については5種目(「25メートル走」(走力)、「テニスボール投げ」(投力)、「立ち幅跳び」(跳躍力)、「跳び越しくぐり」(身のこなし・俊敏性)、「握力(両手)」(筋力))のうち「立ち幅跳び」と「握力(両手)」の結果において、むしろA園の方が勝っているということが明らかとなった。

本研究で対象とした園庭のない保育園(階上にあるテラス型の園)においては、デイリープログラムが自由遊びを中心として組み立てられていること、掃除など様々な機会を通して意図的に運動機会を増やすような取り組みが運動量をあげることに寄与しており、保育士の限定された環境への危機意識がこうした取り組みに反映しているのではないかと考えられた。

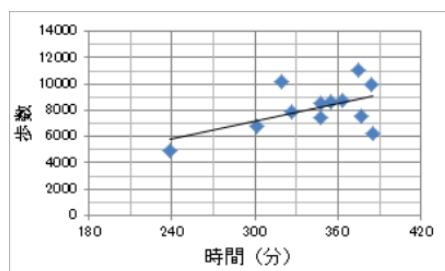


図 対象児の歩数及び歩行距離

(3) 保育者の意識調査からみた保育所における園庭が果たす役割

まず園の環境について聞いたところ、「土のある一般的な園庭がある」が211人(47.8%)、「とても狭いが土のある園庭がある」が123人(27.9%)、「園庭はないが、テラスがある」が48人(10.9%)、「園庭もテラスもない」が38人(8.6%)、「その他」が13人(2.9%)であった。「園庭に対して期待すること」および「散歩に対して期待すること」は表の通りである。

園庭のタイプにより「一般的園庭」「狭いが土の園庭あり」「園庭なしテラスあり」「園庭テラスなし」に分類して検討したところ

「テラスのみ」「園庭テラス共がない園」が最も園庭に期待することは、砂場遊びや泥んこ遊びであった。このことから、子どもの発達や情緒の安定における砂場遊びの重要性を保育士が認識し、子どもを土や砂で遊ばせたいと願っていると考えられた。また、散歩への期待では、「草花や小動物などに触れる」が最も多かった。

「散歩に対する期待」について「園では経験できない活動や遊び」の項目で乳児より幼児が高かった。4,5歳児になると乳児と共有する狭い園庭では、ボール遊びや集団ゲーム等ができず、そういった活動を散歩に期待していることが推察できる。

園庭に対する期待の中で「探索活動を保障する」はすべての場合において少なく、これは多くの保育所の園庭は運動場や遊具のある広場といった仕様となっており、子どもの探索心や探究心を刺激する環境としては不十分であり、保育士も期待していないためと推察できる。単に運動場や遊具で遊ぶとしての園庭ではなく、子どもが探索する、遊びが豊かになる環境として考えられている必要があるのではないだろうか。

表 園庭への期待

| 園庭への期待                        |       |
|-------------------------------|-------|
| 戸外で体を十分に動かし、健康増進や体力の向上が図られる   | 80.7% |
| 安全な空間で思いっきり遊ぶことができ、心が解放される    | 74.4% |
| 草花や小動物など、身近な自然に触れ、感性が育つ       | 54.4% |
| 砂場遊びや泥んこ遊びを十分経験できる            | 79.4% |
| 探索活動を十分に保障してあげられる             | 36.3% |
| 植物を栽培したり、野菜を育てたり、小動物の飼育を経験できる | 54.4% |

(4) 園庭がない園（ビルの階上にテラス型の園庭をもつ）の保育上、管理運営上の課題

1) 園長等へのインタビューをまとめると以下の通りであった。

テラス型園庭の使い方ときまり

D園以外の4園は通常の園庭としての使い方をしてきた。D園はテラスに畑をおき、出入りの課題もあることから主に畑スペースとして用いていた。

いずれの園も階上にありフェンスを越えてしまうためボールは使わない、ジャンプなど高さのあることはしないなどがあった。砂場がある園は、砂を外に出さない、砂場の底が出たら大事にする（C園）、ラバーのつなぎをほじらない（E園）などの約束があった。

良さと困難

難しさについては2園はどちらでもなく、1園は肯定的に捉えていた。良さとしては防犯上のこと、動物が入らないことから砂場が管理しやすいことなどがあった。自然が少ないことや、そのために散歩にいても自然との

関わり方を知らないことをあげた園もあった。

保育上の配慮、管理運営上の課題

上階からの落下物への対策、音への苦情対策、人工芝の経年変化への対応などがあった。また、散歩で経験させたいことを考えて組み立てているなどもあった。

テラス型の園庭の環境

園庭の環境は園によって異なっていた。当初から大型遊具が設置されている園もあれば、当初は全く何もなく砂場などを後から購入した園もあった。

2) 考察

接地性のない階上にテラス型の園庭をもつ園も、広さや固定されている遊具や環境、保育上の位置づけと用い方など園により異なっていた。また土の園庭とは異なるテラス型の園庭の特徴にはさまざまに配慮していることが伺えた。特に自然に関することを経験させたいがテラス型園庭では経験させられない感じていることが多くあった。

(5) 階上にあるテラス型の園庭における遊びを豊かにする環境構成への実践的研究

本研究の結果、階上にあるテラス型の園庭という環境では、「自然」に関する遊びが少ないことや、組織的なごっこ遊びが少ないことが明らかになった。また、園庭は単に運動場ではなく、探索心や探究心を刺激し、遊びを創りだせる場であり、子どもが豊かに遊べる場であろう。階上にあるテラス型の園庭に対して、遊びが豊かになる環境構成についての事例的実践研究を行った。

遊具の導入

2種類の遊具を導入した。丸太（直径30センチ、5m70cm）とすのこ（30cm×60cm）であり、すのこは最終的には40枚になった。

丸太ではどんじゃんけん、またぐ、乗る、横歩き、座る、すのこを持ってきてすべり台にするなどがみられた。すのこでは、すのこをしいて寝る、家をつくってごっこ遊び、ベンチなどの組み立て、何枚かすのこを重ねて不安定なすのこの上を歩くなどがみられた。

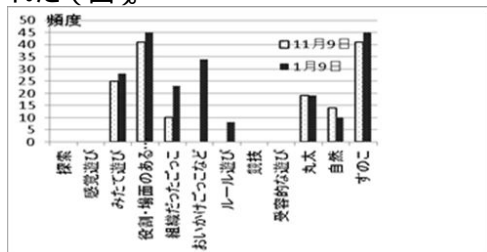
丸太は導入直後は多くの子どもが登る、わたる、ゲームをするなどがみられたが、その後はもっぱら休憩する場として使われた。すのこは大型遊具の下にすのこを用いて家をつくり5歳の女兒グループがストーリーのあるごっこ遊びを長時間展開する姿がみられた（2回）。すのこ1枚では立てることができないため2枚のバランスをとって立てることに取り組む姿もみられた。遊具は「可動性」「応答性」が高く、「遊びの規定性」が低いものが子どものイメージにあわせて用い、多様な遊びを誘発すると推測された。

子どもが関わるができる自然環境の導入

子どもが関わるができる自然環境として「雑草」を導入した。保護者に呼びかけなどして雑草を持ってきてもらい、プラン

ターに植えて園庭においた。すると子ども達は興味津々で集まり、雑草を取ったり土を掘って虫探しを始めた。雑草のプランターは1週間ですべて雑草が全滅した。これらを受け、専門家のアドバイスから「雑草の養生」を行うこととした。1ヶ月程度後に勢いよく育った雑草を、「抜かないでちぎって遊ぼう」と約束して園庭に設置した。

これらの環境構成の試みを行いながら階上にあるテラス型の園庭での子どもの遊びをフィールドノーツ及びVTR記録により観察したところ、遊びの種類等の増加が見られた(図)。



図テラス型園庭での遊びの出現頻度の変化

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

(1) 早川悦子 (2017) 保育所における園庭が果たす役割 - 保育士への調査から - . 鶴見大学紀要第54号、第3部、保育・歯科衛生編、73-78.

〔学会発表〕(計10件)

(1) 早川悦子・山中あけみ・高橋かおり・仙田考・幸喜健・岡野雅子 (2018) 園地がない保育所という環境への挑戦 第3報 - 日本保育学会第71回研究大会.

(2) 山中あけみ・早川悦子・高橋かおり・仙田考・幸喜健・岡野雅子 (2018) 園地がない保育所という環境への挑戦 第4報 - 日本保育学会第71回研究大会.

(3) 幸喜健 (2018) 園地がない保育所という環境が保育や子どもに及ぼす影響 - 運動の視点からの検討 - . 日本保育学会第71回研究大会.

(4) 細川かおり・早川悦子・仙田考・山中あけみ・河西由佳・幸喜健・岡野雅子 (2017) 園地がない保育所という環境への挑戦第1報 - 遊具の導入による遊びの変化と遊具の機能の考察 - . 日本保育学会第70回研究大会.

(5) 早川悦子・細川かおり・仙田考・山中あけみ・河西由佳・幸喜健 (2017) 園地がない保育所という環境への挑戦第2報 - テラスを豊かに「雑草プロジェクト」の取り組み - . 日本保育学会第70回研究大会.

(6) 幸喜健・細川かおり・早川悦子・岡野雅子 (2017) 園地がない保育所という環境が保育や子どもに及ぼす影響 第4報 運動の視点からの検討 . 日本保育学会第70回研究大会.

研究大会.

(7) 細川かおり・早川悦子・幸喜健・岡野雅子 (2016) 園地がない保育所という保育環境が保育や子どもに及ぼす影響第3報 - 園長へのインタビューを通じた保育上の配慮 - . 日本保育学会第69回大会発表論文集.

(8) HOSOKAWA Kaori (2016) A Study on the physical environment of nursery school for children with ASD and children with Down Syndrome. IASSIDD 15th World Congress (Melbourne)

(9) 細川かおり・早川悦子・幸喜健・岡野雅子 (2015) 園地がない保育所という保育環境が保育や子どもに及ぼす影響第2報 - 園庭での遊びと園地がない保育所の外遊びの事例研究 - . 日本保育学会第68回大会発表論文集.

(10) 早川悦子・細川かおり・幸喜健・岡野雅子 (2015) 保育所における園庭が果たす役割 - 保育士への調査から - . 日本乳幼児教育学会第25回大会研究発表論文集、p122-123.

〔その他〕

現場への研究成果還元のための研究成果報告冊子

園地のない保育所における保育に関する研究 階上にあるテラス型園庭という環境が及ぼす影響と環境への挑戦」

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

細川かおり (HOSOKAWA KAORI)

千葉大学教育学部教授

研究者番号: 50259199

(2) 研究分担者

岡野雅子 (OKANO MASAKO)

東京福祉大学保育児童学部教授

研究者番号: 10185457

幸喜健 (KOKI KEN)

鎌倉女子大学短期大学部准教授

研究者番号: 20636930

(3) 連携研究者

早川悦子 (HAYAKAWA ETSUKO)

元鶴見大学短期大学部准教授

研究者番号: 20583496